雪谷地区優秀作文

「支える」を繋げる

大田区立雪谷中学校　三年　吉井　愛奈

私は、税金によって支えられている国民の一人だと思います。

私は小学二年生の時から七年ほどクラシックバレエを習っていました。その当時は何度も脚を怪我してしまい、約四年間リハビリのため病院に通っていました。また、昨年コロナウイルスにかかり、その後遺症で味覚と嗅覚に障害が残りました。現在も治っておらず、毎週のように通院しては大量の薬が処方されます。治療を始めてからは、すでに一年が経っています。

本来、これだけ通院したり薬の処方をしてもらったりすると、かなりの費用になると思います。しかし、私が住む東京都では、高校生以下の医療費が税金からまかなわれるため無償となっています。そのため、私は多くの通院を重ねていますが、病院で診察代・薬代を払ったことはありません。

私自身も何度も病院のお世話になっていますが、五年ほど前に母ががんになり、同時期に当時高校生だった姉も国の指定難病に診断され、二人が入院することになりました。二人も入院する上、姉が入院した当時は高校生の医療費は自己負担だったので、ただの通院とはわけが違い、莫大な費用がかかるはずです。しかし、共済の助成金制度や医療保険制度などにより、本来必要な額に比べて入院費用を大きく抑えられたそうです。母は、「姉の入院費も今だったら無料だから、費用を抑えられたとはいえ大きな出費だった。」と言っていました。この言葉を聞いて、医療費が無償であるということは、金銭的な負担の軽減に、実は大きく繋がっているのだと気が付きました。普段、気にしたことはありませんでしたが、少し意識してみるだけでそのありがたみがどれほどのものなのか、改めて考えさせられました。

子供の養育費には、一人あたり一千万円ほどかかると言われています。子供にかかるお金は多いので、子供の医療費の無償制度や助成金制度などによって救われた人は、きっとたくさんいるはずです。我が家では三人兄妹を母が一人で育ててくれています。我が家はもちろん、同じような家庭などは特に、こういった制度に助けられているのだと思います。でも、私の家族や他の大勢の人を支えているであろうこの制度は、税金があって初めて成り立つ制度です。税金が正しい使われ方をしていて、きちんと納めている人がたくさんいるからこそ、救われる人がいるのです。中学生の私にとって、「税金」というものはまだあまり馴染みのないものです。しかし、税金は今の社会を形づくっているものの一つなので、それをすでに払っている人たちは本当に凄いと思います。私も、将来しっかり働いてしっかり税金を納めたいと思います。

今の自分が支えられているように、今度は私が、未来を担う私たちが、誰かを支える番です。